

雨

三年 木下 渚

雨が降る前、雲ばかり集まってきます。まるで人がいっぱいいるようです。空は暗くなると、手がとどきそうなくらい雲が、低くなります。それに、息がしにくいような気がします。

やがて、雨が降り始めます。

小雨がしとしと、だれかのささやきみたいです。その時、一人散歩して、気分がさわやかに

かになります。雨は、かみの毛をぬらし、顔をぬらし、服をぬらします。ここちよい感じが、まるで湖の中のうずみたいに、広がってきます。

大雨が降ると、家のまどを開けて、遠くの景色をながめます。だって、外にいたら、びしょぬれになるんだもん。はげしい雨の音を聞いてみると、まるで雨のコンサートを見ているようです。

かみなりや、いなびかり、それに、ぼう風

雨の時は、さい悪です。外にいても、家にい
ても、こわいです。かみなりは、きよ人がど
なっ、ているみたいなんだもん！ママに、だき
しめられたいです。耳せんしても、聞こえま
す。体がふるえます。

それでも、雨が好きです。雨が降った後の
空気はきれいです。それに、公園の木々や草
も雨に洗われて、キラキラしています。運が
めかっ、たら、にじも見えます。

雨がやんだ後、私ほうをのばして、深こ
き^カうします。き^ト、花や木や畑の作物も
よるこんでいるでし^カう。そして、秋はほう
作になり、私たちの生活はゆたかになります。